

ななむら

第63号
発行：照来地区公民館
責任者：館長
☎ 92-1738

令和2年9月1日現在
世帯数 535世帯
人口 1,489人
(男690人、女799人)

9月に大きな2つの台風が九州を直撃！

今月、台風9号と10号が続けて九州地方を直撃しましたが、台風接近前に気象庁が発表したのは「記録的な大雨・暴風・高波・高潮となるおそれがあり、最大級の警戒が必要」。台風10号にいたっては、「特別警報（中心気圧930hp以下、最大50m/s以上）の勢力まで発達する」といったものでした。

最近では、こうした「今まで経験したことがない大雨・・・」「記録的な大雨・・・」「特別警報」といった文言が載った記事を目にしますが、年々台風も巨大化してきているように思います。やはり、地球温暖化のせいなのでしょう。

さて、皆様ご存知のとおり9月1日は「防災の日」ですが、「防災の日」を制定した目的や由来はご存知でしょうか。

「防災の日」制定の目的

防災の日は、昭和35年（1960）に制定され、制定された理由は、日本が自然災害の多い国であることが関係しています。

日本では、地震や津波、高潮、台風、豪雨、洪水など、自然災害が少なくありません。

そのため、災害に対する認識を深めることを目的に「防災の日」が制定されました。

また、自然災害に対する備えや対策を強化することも含まれています。防災対策に力を入れることが、災害を未然に防止することや最小限に抑えることにつながります。

「防災の日」制定の決め手となったのが、昭和34年（1959）に日本列島を横断した「伊勢湾台風」です。「伊勢湾台風」は、明治以降に襲来した台風の中でも最も多くの犠牲者を出した台風でした。

「防災の日」制定の由来

「防災の日」が9月1日に制定されたのは、大正12年（1923）に大被害をもたらした「関東大震災」に由来しており、9月1日は「関東大震災」が起きた日です。

また、古くから伝わっている「二百十日」も、9月1日が選ばれた由来とされています。二百十日とは、立春から数えて210日の日を指し、現在の暦では9月1日前後になります。

この時期は、台風が襲来し稲作などが大被害を受けやすい厄日とされています。



照来地区公民館の使用について

～照来地区公民館を使用する団体のみなさんへ～

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の点についてご協力をお願いしたいと思います。

- 来館時には、マスクを着用し、手の消毒と検温を行ってください。消毒液は、手を消毒するものと机等を消毒するものの2種類ありますので、間違えないようにお願いします。
 - 検温して熱のない方であっても、咳、咽頭痛などの症状がある方のご利用はご遠慮ください。
 - 3つの密（密閉、密集、密接）を避けてください。
 - 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空けてください。
 - 代表者の方は、利用される方全員の名簿（氏名、住所、連絡先のわかる）を作成してください。
- 新型コロナウイルスの感染が確認された場合に、連絡が取れるようにするためです。
- ※利用者名簿は、大会議室に置いてありますので、ご利用ください。



作品展示会のご案内

(照来の小さな文化祭)

- 日時：11月14日(土)～15日(日)
- 場所：「照来地区公民館」
- 内容：絵画、手芸品、工芸品、詩歌、書、写真等の展示ほか

10月の事業予定

- ◆10月20日(火) 午後7時30分～
事業名：「メディカルヨガ教室」
場所：「照来地区公民館」
- ◆10月21日(水) 午後7時～
事業名：「ななむらうぐいす会」
場所：「照来地区公民館」
- ◆10月下旬 午後7時～
事業名：「野菜づくり講座」
場所：「照来地区公民館」

「作品展示会」の作品募集



展示できるものであれば何でも結構です。
沢山の出品をお待ちしております。(募集チラシは後日配布します。)

毎年、大変好評なのが「昔懐かしい照来の写真」です。
皆さんのお家に眠っている昔の照来の風景、家、人、学校行事等の写真がありませんか！
この機会に探してみてもらえないでしょうか。



照来の歴史⑬ 桐岡『湯村と桐岡境のはなし』

『昔、湯村と桐岡の境を決めるのに、ひと悶着あったそうだ。』

どうやって決めるか相談をした末、湯村の庄屋と桐岡の庄屋が同じ時刻に向い合わせに出発して、出合ったところを境にしようということになった。

さて、約束の時刻になって、湯村の庄屋はどんどん歩いて行ったが、どこまで行っても桐岡の庄屋は来ない。おかしいと思いながら歩いて行くと、とうとう桐岡のてっぺんまで来てしまった。

桐岡の庄屋は寝坊をしてしまったのだ。仕方がないので明日もう一度することにした。

ところが、二日目も、「今日は大丈夫だろう。」と言いながら湯村の庄屋は出発したが、桐岡の庄屋はなかなか見えない。「もう少し行けば来る。もう少し行けば・・・。」どんどん歩くうち、結局昨日と同じ桐岡のてっぺんまで来てしまった。

寝ぼけまなこの桐岡の庄屋に、「あと一回だけですよ。」と、湯村の庄屋が念を押したが、三度やっても同じことだった。

結局、二つの村のまん中あたりと思われる「宴の清水」を境にしたそうだ。』

(但馬・温泉町の民話より)

この話しを読んで、「あれ!」と思いませんか? 二つの村のまん中が「宴の清水」? 「宴の清水」は照来小学校の下あたりなのに、ここが二つの村のまん中なのでしょうか。

確かに、照来小学校の下の田んぼ(湯村側)は、桐岡の人が作っていますが、字名は湯です。民話は、実話や体験談のかたちで口承されることが多いようですが、こうした事実からすると、この民話は実話なのかなと思ってしまいます。



照来小学校下「宴の清水」附近